

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません。

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-079 改6
提出年月日	平成30年8月22日

V-3-別添 3-4-1 水密扉の強度計算書

目次

1. 概要.....	1
2. 基本方針.....	2
2.1 位置.....	2
2.2 構造概要.....	3
2.3 評価方針.....	8
2.4 適用規格.....	10
3. 強度評価方法.....	11
3.1 記号の定義.....	11
3.2 評価対象部位.....	13
3.3 荷重及び荷重の組合せ.....	16
3.4 許容限界.....	17
3.5 評価方法.....	19
4. 評価条件.....	25
5. 強度評価結果.....	30

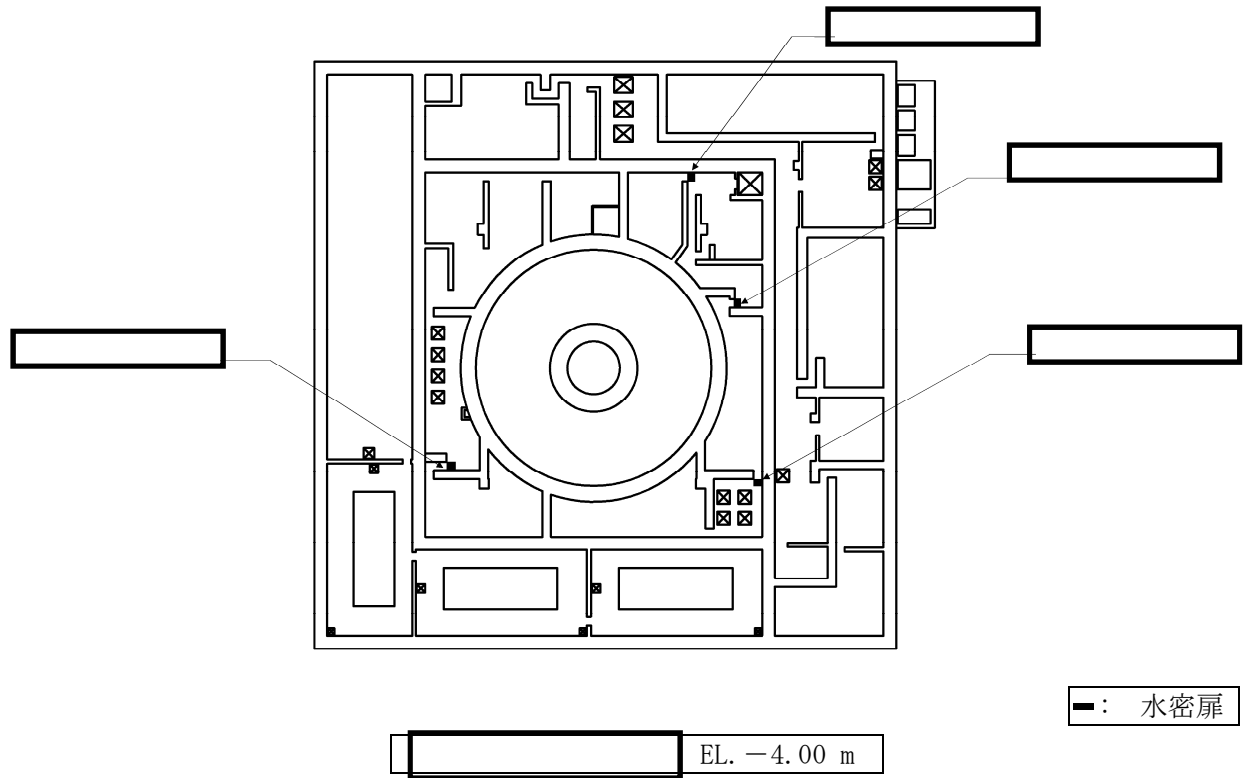
1. 概要

本資料は、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」に示すとおり、原子炉建屋地下2階に設置する水密扉（以下「水密扉」という。）が、発生を想定する溢水による静水压荷重に対して、止水性の維持を考慮して、主要な構造部材が構造健全性を維持することを確認するものである。

2. 基本方針

2.1 位置

水密扉は、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の構造計画に示すとおり、原子炉建屋原子炉棟の開口部に設置する。水密扉の設置位置図を第2-1図に示す。



第2-1図 水密扉の設置位置図

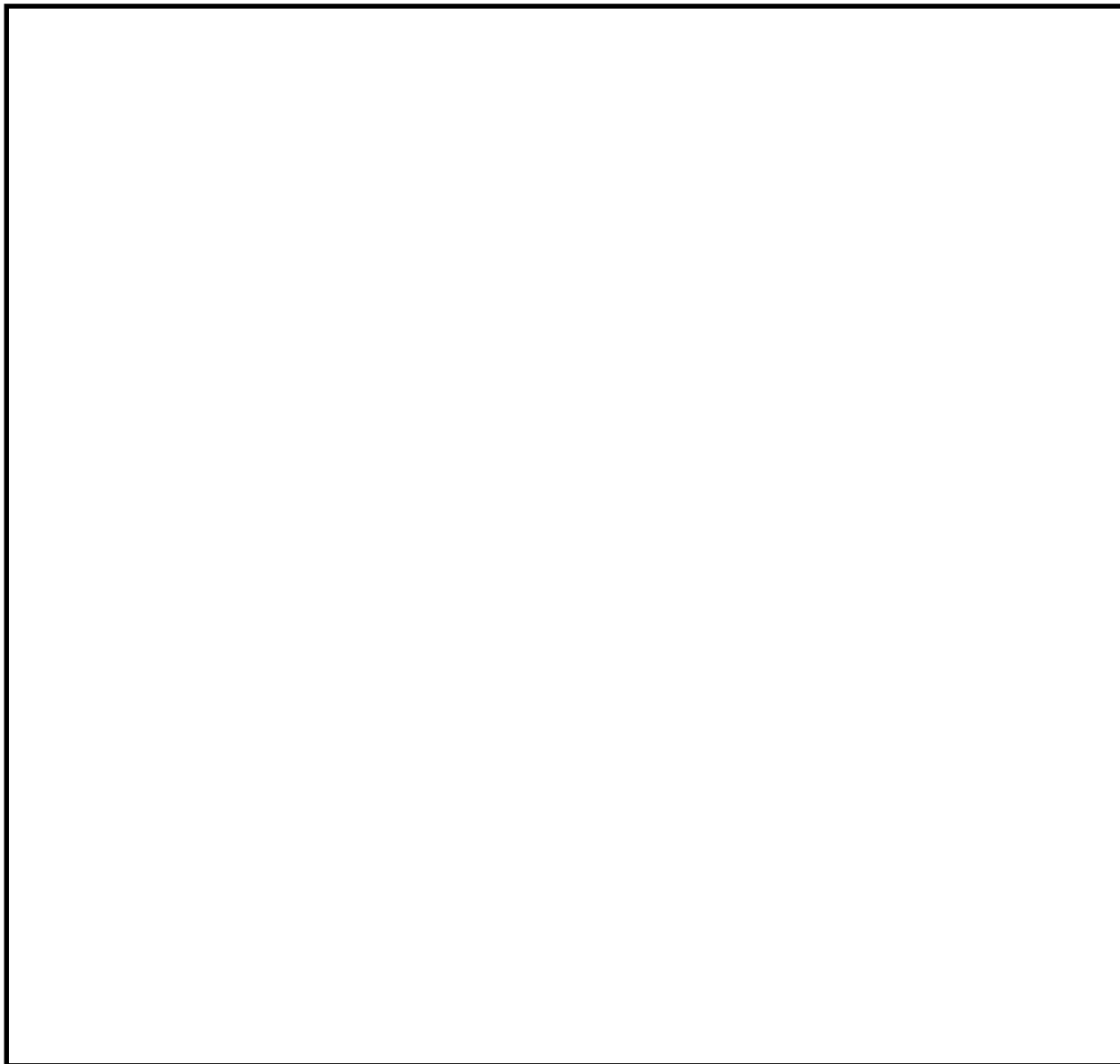
2.2 構造概要

水密扉の構造は、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「3. 構造強度設計」に示す構造計画を踏まえて、詳細な構造を設定する。水密扉の構造計画を第2-1表に、構造図を第2-2図、第2-3図、第2-4図、第2-5図に示す。

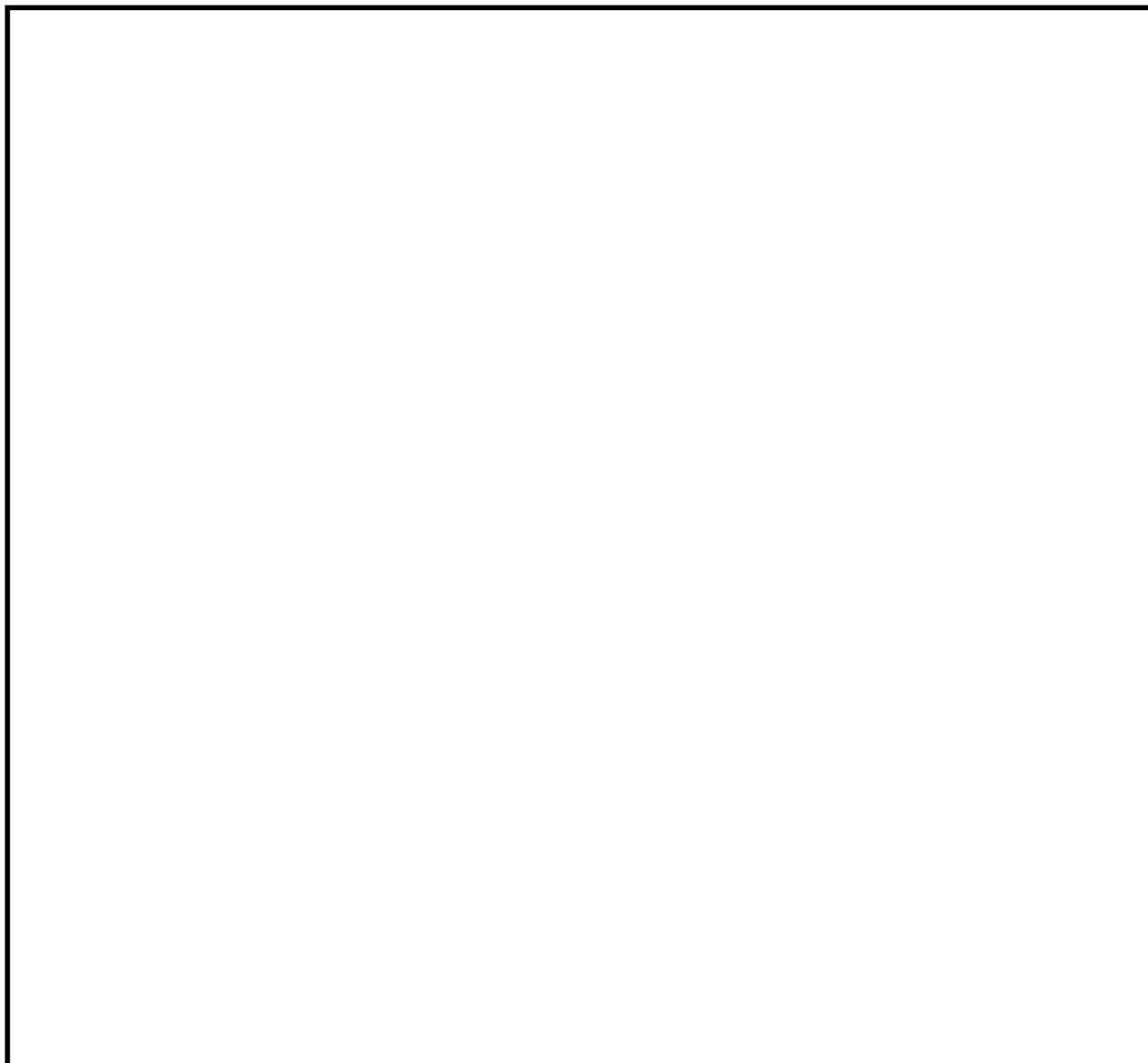
第2-1表 水密扉の構造計画

設備 名称	計画構造		説明図
	主体構造	支持構造	
水密扉	<p>片開型の鋼製扉とし、鋼製の扉板に芯材を取り付け、扉に設置された締付装置（カンヌキ）を鋼製の扉枠に、差し込み、扉と扉枠を一体化させる構造とする。</p> <p>また、扉と扉枠の接続はヒンジとする。</p>	<p>扉開放時には、ヒンジにより扉が扉枠に固定され、扉閉止時には、締付装置（カンヌキ）により扉が扉枠に固定される構造とする。</p> <p>また、扉枠を建屋の開口部周辺に、アンカーボルトにより固定する構造とする。</p>	

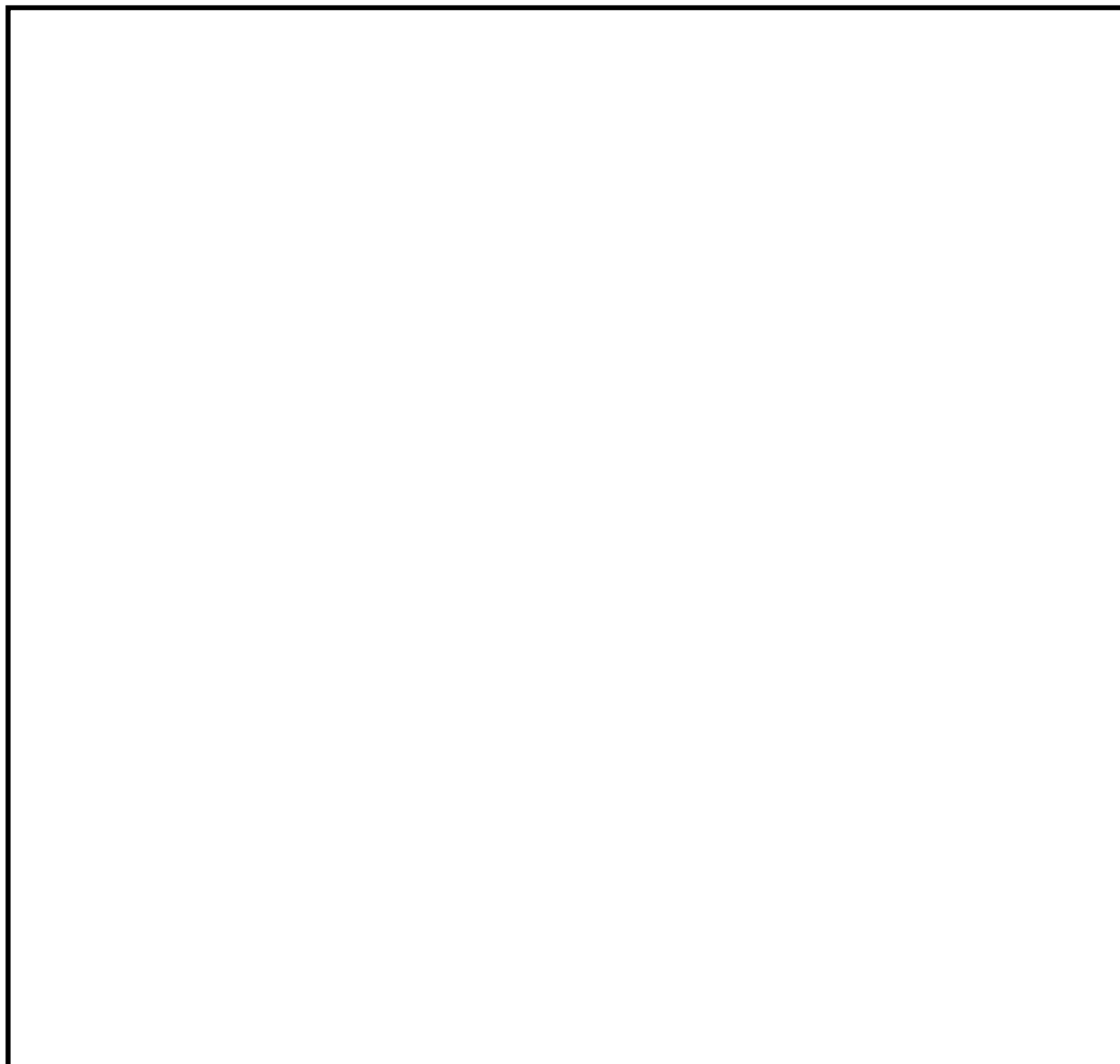
NT2 補② V-3-別添-3-4-1 R6



第2-2図 残留熱除去系A系ポンプ室水密扉の構造図



第2-3図 原子炉隔離時冷却系室北側水密扉の構造図



第2-4図 原子炉隔離時冷却系室南側水密扉の構造図



第2-5図 高圧炉心スプレイ系ポンプ室水密扉の構造図

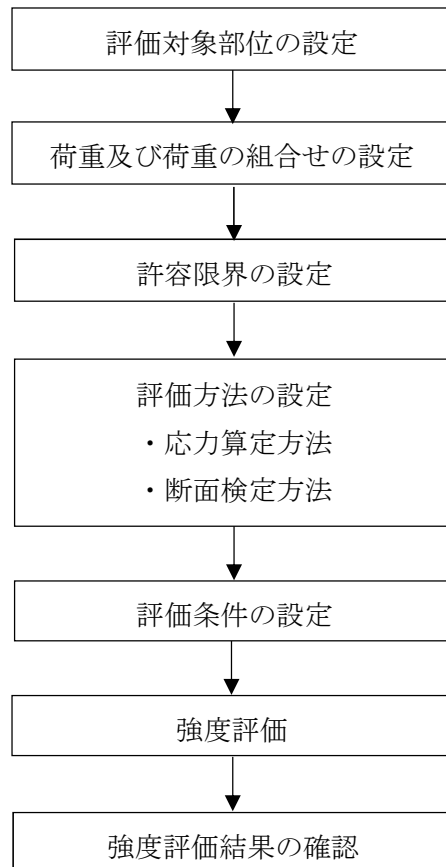
2.3 評価方針

水密扉の強度評価は、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「4.1 荷重及び荷重の組合せ」及び「4.2 許容限界」にて設定している荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界を踏まえて、水密扉の評価対象部位に作用する応力等が許容限界内にあることを、「3. 強度評価方法」に示す方法により、「4. 評価条件」に示す評価条件を用いて評価し、「5. 強度評価結果」にて確認する。

水密扉の強度評価フローを第2-6図に示す。水密扉の強度評価においては、その構造を踏まえ、発生を想定する溢水による静水圧荷重により、原子炉建屋原子炉棟に設置する水密扉へ作用する荷重方向及び伝達過程を考慮し、評価対象部位を設定する。

強度評価に用いる荷重及び荷重の組合せは、静水圧荷重が作用する場合を考慮する。

強度評価においては、荷重を静的に作用させる静的解析により、扉板、芯材及び締付装置（以下「カンヌキ部」という。）並びにアンカーボルトの発生荷重を算定し、許容限界との比較を行う。



第2-6図 水密扉の強度評価フロー

2.4 適用規格

適用する規格，基準等を以下に示す。

- 建築基準法・同施行令
- 鋼構造設計規準—許容応力度設計法—（（社）日本建築学会，2005改定）
- 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説（（社）日本建築学会，2010改定）
- 各種合成構造指針・同解説（（社）日本建築学会，2010改定）
- JIS G 3101-2015 一般構造用圧延鋼材
- JIS G 4053-2012 機械構造用 合金鋼鋼材

3. 強度評価方法

水密扉の強度評価は、添付書類「V-3-別添 3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「5. 強度評価方法」にて設定している方法を用いて、強度評価を実施する。

水密扉の強度評価は、「3.2 評価対象部位」に示す評価対象部位に対し、「3.3 荷重及び荷重の組合せ」及び「3.4 許容限界」に示す荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界を踏まえ、「3.5 評価方法」に示す方法を用いて評価を行う。

3.1 記号の定義

水密扉の強度評価に用いる記号を第3-1表に示す。

第3-1表 強度評価に用いる記号 (1/2)

記号	単位	定義
A	mm ²	断面積
A _a	mm ²	1本当たりの表面積
A _b	mm ²	1本当たりの断面積
a _n	m	横桁ピッチ
g	m/s ²	重力加速度
h	m	当該部分の浸水深
H	m	水深
h _c	m	水圧中心位置
h'	m	水圧中心位置からカンヌキ間距離
H _g	m	受圧高
L	m	区画短辺の長さ
L _b	mm	軸支持間距離 (カンヌキ)
L _p	mm	軸支持間距離 (カンヌキ受けピン)
L _k	m	カンヌキ中心間距離
M	kN・m	曲げモーメント
M _{X1}	-	等分布荷重による曲げ応力算定用の係数
M _{X2}	-	等変分布荷重による曲げ応力算定用の係数
n	本	ボルトの本数
P ₀	kN	設計水圧荷重
P _h	kN/m ²	溢水による静水圧
P _T	kN	許容引張力
P _n	kN/m ²	横桁負担荷重
Q	kN	せん断力
R _p	kN	溢水に伴う荷重による反力
T	kN	引張力

第3-1表 強度評価に用いる記号 (2/2)

記号	単位	定義
W_d	kN/m	区画下端の単位長さ当たりの作用荷重
W_u	kN/m	区画上端の単位長さ当たりの作用荷重
Y	m	主桁ピッチ
Z	mm ³	断面係数
ρ	t/m ³	水の密度
σ	N/mm ²	曲げ応力度
σ_T	N/mm ²	引張応力度
σ_x	N/mm ²	組合せ応力度
τ	N/mm ²	せん断応力度
Q_a	kN	アンカーボルトの短期許容せん断力

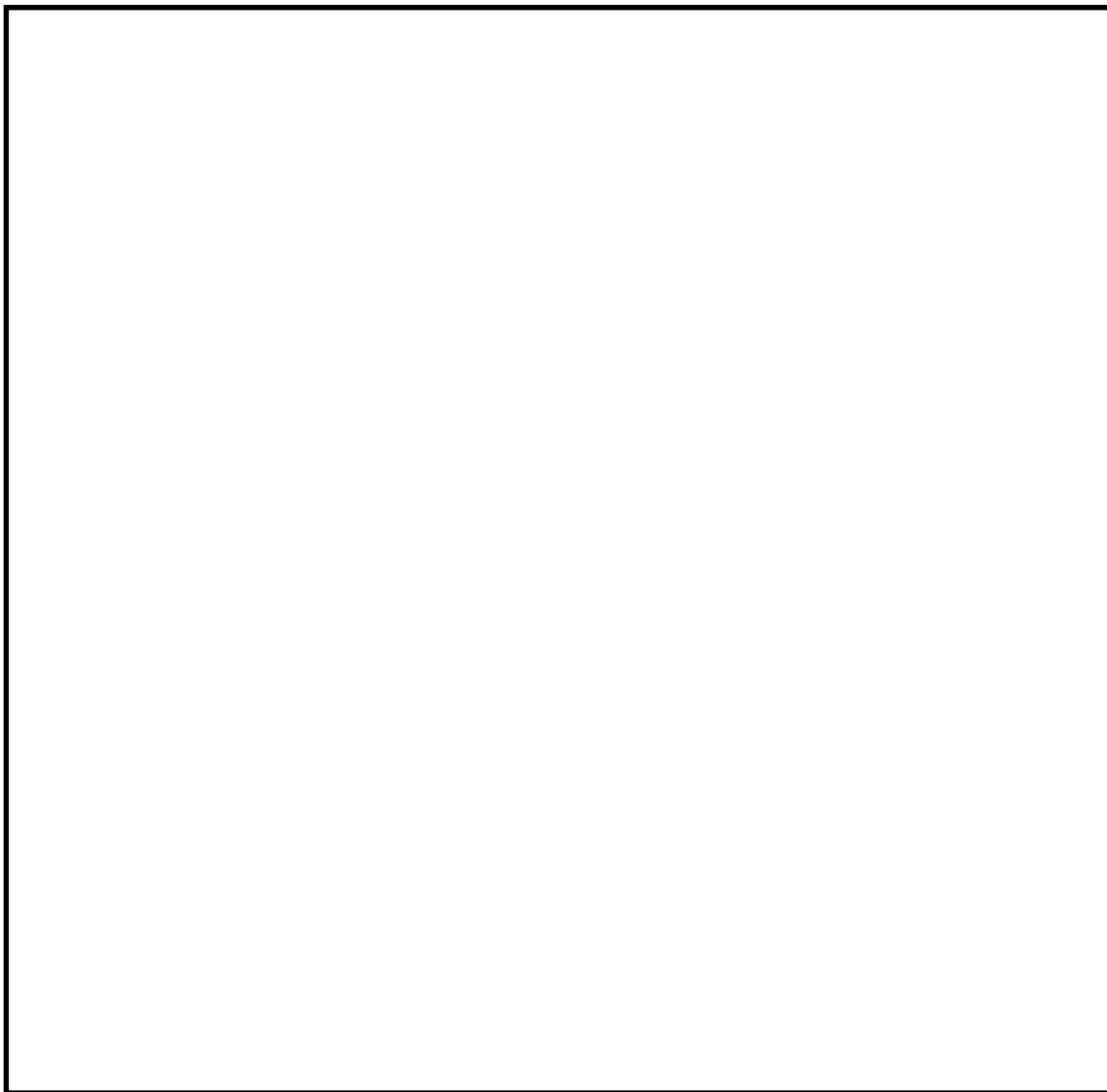
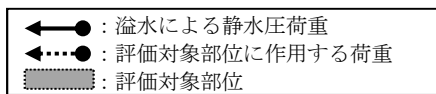
3.2 評価対象部位

水密扉の評価対象部位は、添付書類「V-3-別添 3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「4.2 許容限界」にて示している評価対象部位を踏まえて、「2.2 構造概要」に示す構造計画にて設定している構造に基づき、荷重の作用方向及び伝達過程を考慮し設定する。

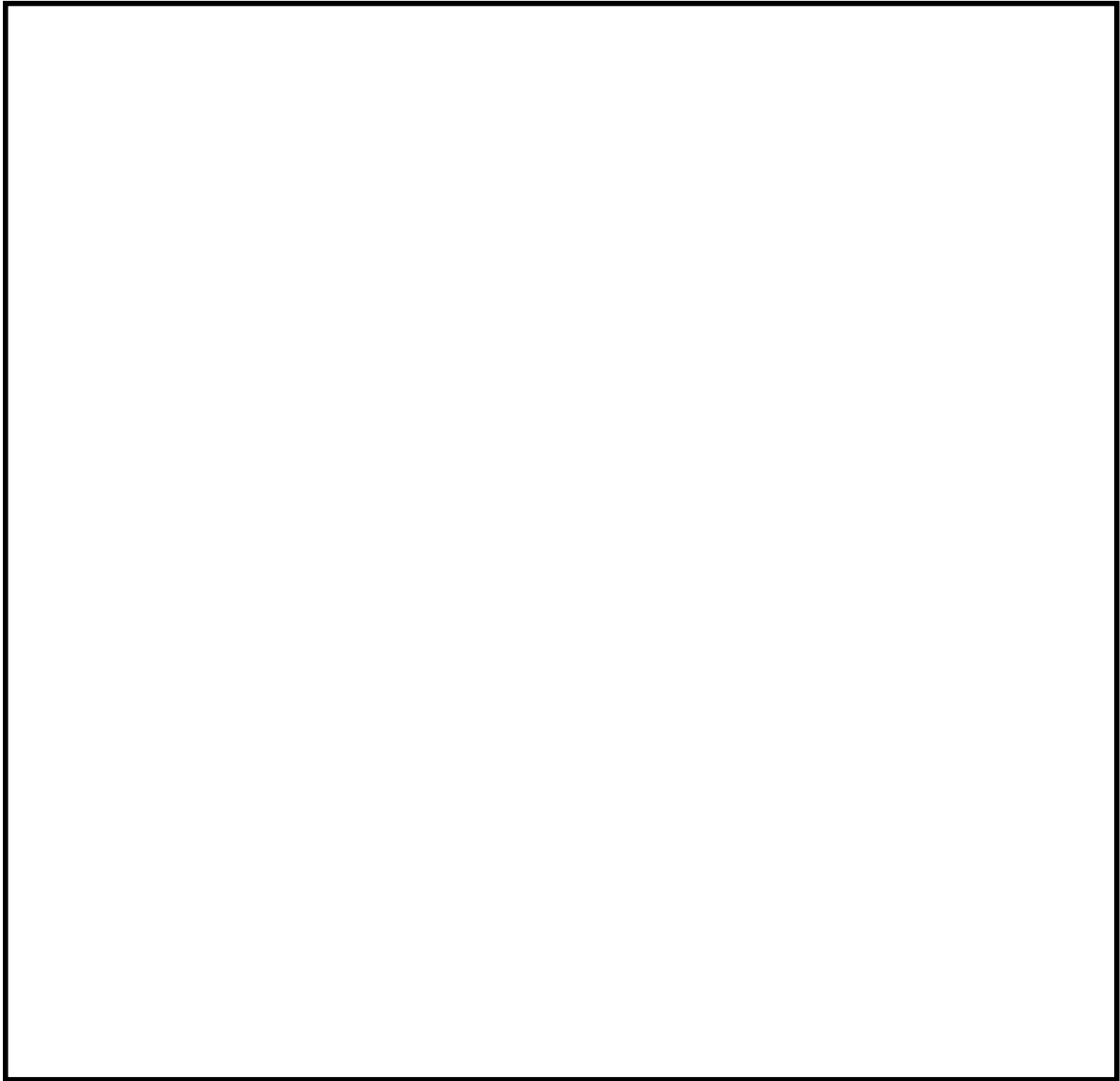
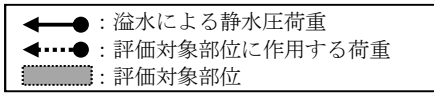
外部からの荷重作用時は、扉板から芯材に伝わり、壁と一体化した扉枠を介し、扉枠を固定するアンカーボルトを介し、開口部周囲の躯体に伝達されることから、評価対象部位は、扉板、芯材及びアンカーボルトとする。

内部からの荷重作用時は、扉板から芯材に伝わり、カンヌキ部に伝達され、扉枠及び扉枠を固定するアンカーボルトを介し、躯体に伝達されることから、扉板、芯材、アンカーボルト及びカンヌキ部を評価対象部位とする。ただし、扉板、芯材及びアンカーボルトについて、考慮する設計水圧荷重は、外部又は内部からの荷重作用時において同じである。

水密扉に作用する荷重の作用図を第3-1図に示す。



第3-1図 水密扉に作用する荷重の作用図 (1/2)



第3-1図 水密扉に作用する荷重の作用図 (2/2)

3.3 荷重及び荷重の組合せ

強度評価に用いる荷重及び荷重の組合せは、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「4.1 荷重及び荷重の組合せ」にて示している荷重及び荷重の組合せを踏まえて設定する。

3.3.1 荷重の設定

強度評価に用いる荷重は、以下の荷重を用いる。

(1) 溢水による静水圧荷重 (P_h)

溢水による荷重として、水圧作用高さまでの静水圧を考慮する。溢水による荷重は、対象とする水の密度に当該部分の水圧作用深さを乗じた次式により算出する。

$$P_h = \rho \cdot g \cdot h \cdot 10^{-3}$$

溢水に伴う荷重の算定に用いる、水圧作用高さ及び水の密度を第3-2表に示す。

第3-2表 水圧作用高さ及び水の密度

扉名称	水圧作用高さ	水密扉の 設置階	床面から の溢水の 高さ (m)	溢水の密度 (t/m ³)		溢水の 性状
				正圧	逆圧	
残留熱除去系A系 ポンプ室水密扉				正圧	1.00	純水
				逆圧	1.00	
原子炉隔離時冷却 系室北側水密扉				正圧	1.00	純水
				逆圧	1.00	
原子炉隔離時冷却 系室南側水密扉				正圧	1.00	純水
				逆圧	1.00	
高圧炉心スプレイ 系ポンプ室水密扉				正圧	1.00	純水
				逆圧	1.00	

3.3.2 荷重の組合せ

強度評価に用いる荷重の組合せは、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「4.1 荷重及び荷重の組合せ」にて設定している荷重を踏まえて設定する。

荷重の組合せを第3-3表に示す。

第3-3表 荷重の組合せ

扉名称	荷重の組合せ
残留熱除去系A系ポンプ室水密扉	P_h
原子炉隔離時冷却系室北側水密扉	P_h
原子炉隔離時冷却系室南側水密扉	P_h
高圧炉心スプレイ系ポンプ室水密扉	P_h

3.4 許容限界

水密扉の許容限界は、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「4.2 許容限界」にて設定している許容限界を踏まえて、「3.2 評価対象部位」にて設定している評価対象部位ごとに、機能損傷モードを考慮して設定する。

(1) 使用材料

水密扉を構成する、扉板、芯材、カンヌキ部及びアンカーボルトの使用材料を第3-4表に示す。

第3-4表 使用材料

部位	材質	仕様	
扉板			
芯材			
カンヌキ部			カンヌキ
			カンヌキ受けピン
			カンヌキ受けボルト
アンカーボルト			

(2) 許容限界

a. 扉板，芯材，カンヌキ部

扉板，芯材，カンヌキ部の許容限界は，「鋼構造設計規準—許容応力度設計法—（（社）日本建築学会，2005改定）」を踏まえて第3-5表の値とする。

第3-5表 扉板，芯材，カンヌキ部の許容限界

材料	短期許容応力度 (N/mm ²)		
	曲げ*3	引張	せん断

*1：tは板厚（mm）を示す。

*2：許容応力度を決定する場合の基準値Fの値は，「JIS G 3101：2015 一般構造用圧延鋼材」，「JIS G 4053：2012 機械構造用合金鋼鋼材」に基づく。

*3：組合せの短期許容応力度は，引張と同じ。

b. アンカーボルト

アンカーボルトの許容限界は，「各種合成構造設計指針・同解説（（社）日本建築学会，2010改定）」に基づき算定した第3-6表の値とする。

アンカーボルトがせん断力を受けるため，アンカーボルトのせん断強度により決まる許容荷重，定着したコンクリート躯体の支圧強度により決まる許容荷重及びコーン状破壊により決まる許容荷重を比較して，いずれか小さい値を採用する。

第3-6表 アンカーボルトの許容限界

扉名称	評価対象となるアンカーボルトの部位	仕様	短期許容荷重 (kN/本)
			せん断
残留熱除去系A系ポンプ室水密扉	躯体全周	M20	34
原子炉隔離時冷却系室北側水密扉		M20	34
原子炉隔離時冷却系室南側水密扉		M20	34
高圧炉心スプレイ系ポンプ室水密扉		M20	34

3.5 評価方法

水密扉の強度評価は、添付書類「V-3-別添3-3 溢水への配慮が必要な施設の強度計算の方針」の「5. 強度評価方法」にて設定している評価式を用いる。

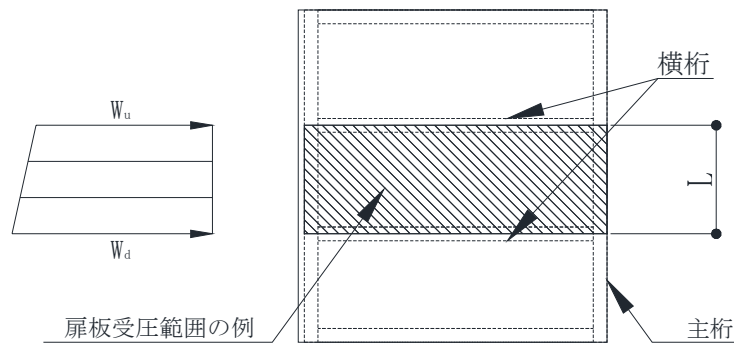
(1) 応力算定

a. 扉板

扉板に生じる応力は、等分布荷重を受ける周辺固定支持の矩形板として、「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説—許容応力度設計法—（（社）日本建築学会，1999改定）」に基づく次式により算定する。なお、算定に当たっては、水圧作用高さにより台形状の分布荷重を考慮する。

扉板に生じる荷重の例を第3-2図に示す。

$$M = M_{x1} \cdot W_U \cdot L^2 + M_{x2} \cdot (W_d - W_U) \cdot L^2$$



第3-2図 扉板に生じる荷重の例

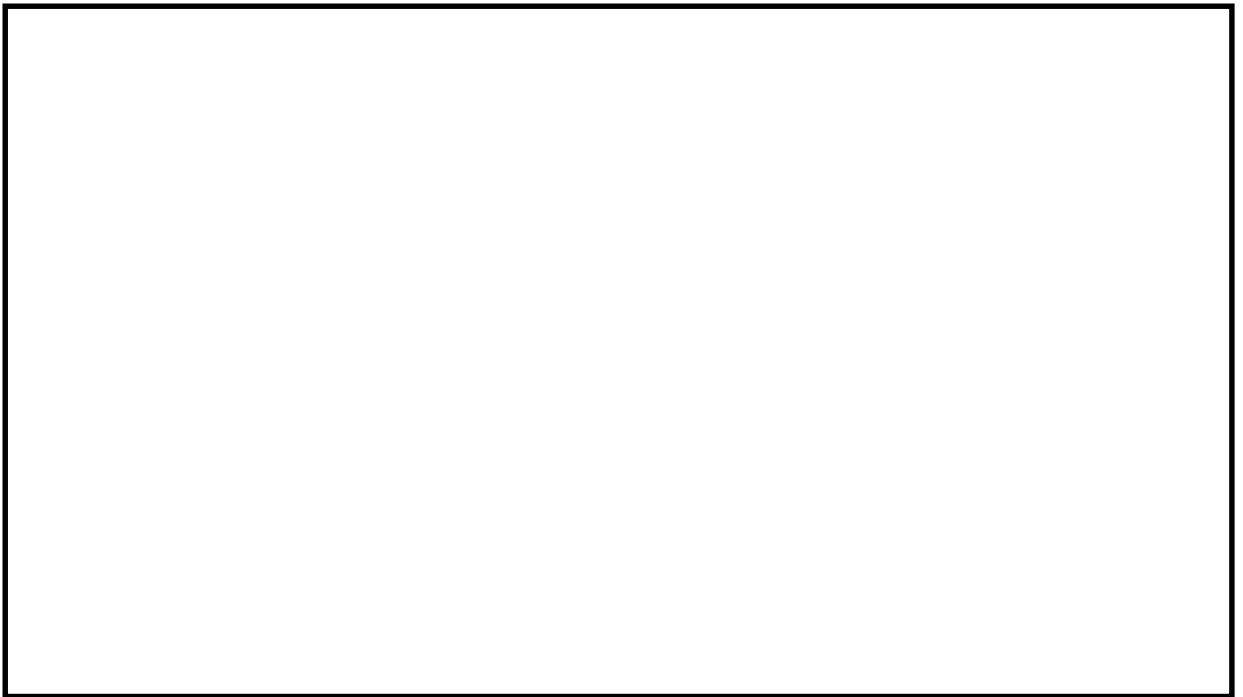
b. 芯材（横桁）

芯材に生じる応力は、等分布荷重を受ける両端支持の単純梁として、次式により算定する。

芯材に生じる荷重の例を第3-3図に示す。

$$M = \frac{P_n + P_{n+1}}{2} \cdot \frac{a_n + a_{n+1}}{2} \cdot \frac{Y^2}{8}$$

$$Q = \frac{P_n + P_{n+1}}{2} \cdot \frac{a_n + a_{n+1}}{2} \cdot \frac{Y}{2}$$



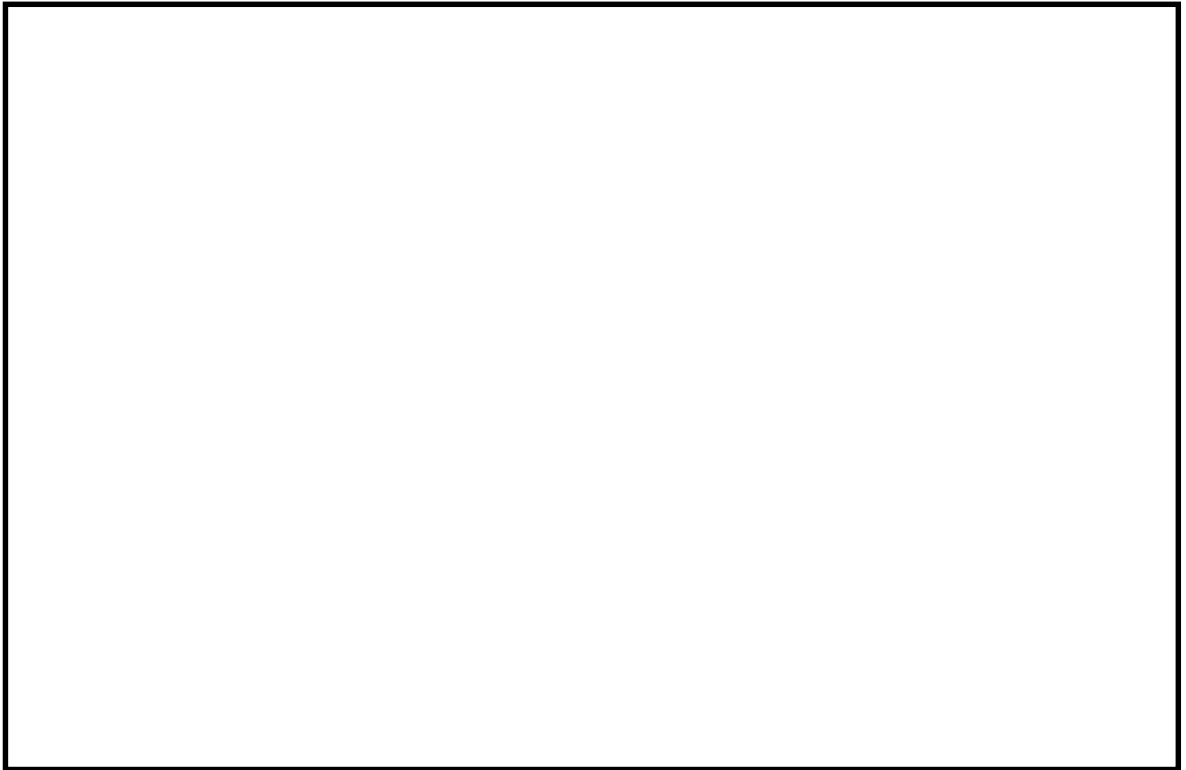
第3-3図 芯材（横桁）に生じる荷重の例

c. カンヌキ部

カンヌキ部は、カンヌキ、カンヌキ受けピン及びカンヌキ受けボルトで構成されており、カンヌキ部に生じる荷重 R_p は、扉上端高さ H_1 及び扉下端高さ H_0 より算定される台形状の分布荷重を集中荷重に置換した設計水圧荷重 P_0 により算定し、各構成部材に発生する荷重を算定する。カンヌキ部に生じる荷重の例を第3-4図に示す。

$$R_p = P_0 \cdot \frac{h'}{2 \cdot L_k}$$

$$h' = L_2 - h_C$$



第3-4図 カンヌキ部に生じる荷重の例

(a) カンヌキ

カンヌキに生じる荷重は，次式により算定する。

カンヌキに生じる荷重の例を第3-5図に示す。

$$M = R_P \cdot L_b$$

$$Q = R_P$$



第3-5図 カンヌキに生じる荷重の例

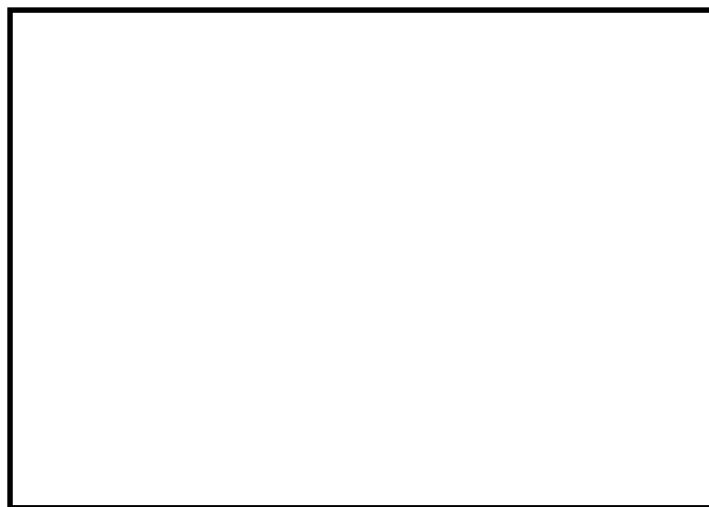
(b) カンヌキ受けピン

カンヌキ受けピンに生じる荷重は，次式により算定する。

カンヌキ受けピンに生じる荷重の例を第3-6図に示す。

$$M = R_P \cdot \frac{L_P}{4}$$

$$Q = \frac{R_P}{2}$$



第3-6図 カンヌキ受けピンに生じる荷重の例

(c) カンヌキ受けボルト

カンヌキ受けボルトに生じる荷重は，次式により算定する。

カンヌキ受けボルトに生じる荷重の例を第3-7図に示す。

$$T = R_p$$



第3-7図 カンヌキ受けボルトに生じる荷重の例

d. アンカーボルト

アンカーボルトに生じる荷重は，正圧又は逆圧の条件下が同じであることから，次式により算定する。アンカーボルトに生じる荷重の例を第3-8図に示す。

$$Q = P_0$$

Q : せん断力 (kN)

P₀ : 設計水圧荷重 (kN)



第3-8図 アンカーボルトに生じる荷重の例

(2) 断面検定

各部材に生じる応力より算定する応力度等が、許容限界値以下であることを確認する。
 なお、異なる荷重が同時に作用する部材については、組合せを考慮する。

a. 扉板

扉板に生じる曲げ応力度を算定し、扉板の短期許容応力度以下であることを確認する。

$$\sigma = \frac{M}{Z}$$

b. 芯材

芯材に生じる曲げ応力度及びせん断応力度を算定し、芯材の短期許容応力度以下であることを確認する。

$$\sigma = \frac{M}{Z}$$

$$\tau = \frac{Q}{A}$$

c. カンヌキ部

(a) カンヌキ

カンヌキに生じる曲げ応力度及びせん断応力度から、組合せ応力度を次式により算定し、カンヌキの短期許容応力度以下であることを確認する。

$$\sigma_x = \sqrt{\left(\frac{M}{Z}\right)^2 + 3 \cdot \left(\frac{Q}{A}\right)^2}$$

(b) カンヌキ受けピン

カンヌキ受けピンに生じる曲げ応力度及びせん断応力度を算定し、芯材の短期許容応力度以下であることを確認する。

$$\sigma = \frac{M}{Z}$$

$$\tau = \frac{Q}{A}$$

(c) カンヌキ受けボルト

カンヌキ受けボルト1本あたりに生じる引張応力度を算定し、ボルトの短期許容応力度以下であることを確認する。

$$\sigma_T = \frac{T}{n \cdot A_b}$$

d. アンカーボルト

アンカーボルト1本あたりに生じるせん断力が、アンカーボルトの許容短期せん断力以下であることを確認する。

$$Q_a = \frac{Q}{n}$$

ここで、

Q_a : アンカーボルト1本あたりせん断力 (kN)

n : 荷重を負担するアンカーボルトの本数 (本)

Q : アンカーボルトに生じるせん断力 (kN)

4. 評価条件

「3. 強度評価方法」に用いる評価条件を第4-1表に示す。

第4-1表 強度評価に用いる条件 (1/4)

強度評価に用いる条件	数値			
	原子炉建屋地下2階水密扉			
	残留熱除去系A系 ポンプ室水密扉	原子炉隔離時冷却系 室北側水密扉	原子炉隔離時冷却系 室南側水密扉	高圧炉心スプレイ系 ポンプ室水密扉
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_1 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_2 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_3 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_4 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_5 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_6 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_7 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_8 （単位： m ）				
芯材（横桁）の横桁ピッチ a_9 （単位： m ）				
芯材（横桁）の断面積 A （単位： mm^2 ）				
カンヌキの断面積 A （単位： mm^2 ）				
カンヌキ受けピンの断面積 A （単位： mm^2 ）				
カンヌキ受けボルト1本当たりの断面積 A_b （単位： mm^2 ）				
カンヌキ部に作用する水圧中心位置 h_c （単位： m ）				
水圧中心位置からカンヌキ間距離 h' （単位： m ）				
芯材（主桁）の受圧高 H_g （単位： m ）				
カンヌキ部の受圧高 H_g （単位： m ）				

第4-1表 強度評価に用いる条件 (2/4)

強度評価に用いる条件	数値			
	原子炉建屋地下2階水密扉			
	残留熱除去系A系 ポンプ室水密扉	原子炉隔離時冷却系 室北側水密扉	原子炉隔離時冷却系 室南側水密扉	高圧炉心スプレイ系 ポンプ室水密扉
扉板の区画短辺の長さL (単位: m)				
カンヌキ中心間距離 L_k (単位: m)				
カンヌキの軸支持間距離 L_b (単位: mm)				
カンヌキ受けピンの軸支持間距離 L_p (単位: mm)				
扉板に作用する曲げモーメントM (単位: kN・m)				
芯材(横桁)に作用する曲げモーメントM (単位: kN・m)				
カンヌキに作用する曲げモーメントM (単位: kN・m)				
カンヌキ受けピンに作用する曲げモーメントM (単位: kN・m)				
扉板の等分布荷重による曲げ応力算定用の係数 M_{x1} (単位: -)				
扉板の等変分布荷重による曲げ応力算定用の係数 M_{x2} (単位: -)				
カンヌキ本数n (単位: 本)				
カンヌキ受けピンの本数n (単位: 本)				

第4-1表 強度評価に用いる条件 (3/4)

強度評価に用いる条件	数値			
	原子炉建屋地下2階水密扉			
	残留熱除去系A系 ポンプ室水密扉	原子炉隔離時冷却系 室北側水密扉	原子炉隔離時冷却系 室南側水密扉	高圧炉心スプレイ系 ポンプ室水密扉
カンヌキ受けボルトの本数 n (単位: 本)				
アンカーボルト本数 n (単位: 本)				
芯材 (主桁) の溢水による静水圧荷重 (上部) P_{hu} (単位: kN/m^2)				
芯材 (主桁) の溢水による静水圧荷重 (下部) P_{hd} (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_1 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_2 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_3 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_4 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_5 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_6 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_7 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_8 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) のピッチ荷重 P_9 (単位: kN/m^2)				
芯材 (横桁) に作用するせん断力 Q (単位: kN)				

第4-1表 強度評価に用いる条件 (4/4)

強度評価に用いる条件	数値			
	原子炉建屋地下2階水密扉			
	残留熱除去系A系 ポンプ室水密扉	原子炉隔離時冷却系 室北側水密扉	原子炉隔離時冷却系 室南側水密扉	高圧炉心スプレイ系 ポンプ室水密扉
カンヌキに作用するせん断力 Q (単位: kN)				
カンヌキ受けピンに作用するせん断力 Q (単位: kN)				
アンカーボルトに作用するせん断力 Q (単位: kN)				
アンカーボルト1本あたりに作用するせん断力 Q_a (単位: kN)				
設計水压荷重 P_o (単位: kN)				
カンヌキ部に作用する設計水压荷重 R_p (単位: kN)				
カンヌキ受けボルトに作用する引張力 T (単位: kN)				
扉板の区画上端の単位長さ当たりの作用荷重 W_u (単位: kN/m)				
扉板の区画下端の単位長さ当たりの作用荷重 W_d (単位: kN/m)				
芯材 (横桁) の主桁ピッチ Y (単位: m)				
扉板の断面係数 Z (単位: mm^3)				
芯材 (横桁) の断面係数 Z (単位: mm^3)				
カンヌキの断面係数 Z (単位: mm^3)				
カンヌキ受けピンの断面係数 Z (単位: mm^3)				

5. 強度評価結果

水密扉の強度評価結果を第5-1表に示す。水密扉の各部材の断面検定を行った結果、発生応力度又は荷重（以下「発生値」という。）は許容限界値以下であることを確認した。

第5-1表 水密扉の強度評価結果(1/2)

名称	評価対象部位		発生値	許容限界値	検定	
残留熱除去系A系ポンプ室水密扉	扉板		N/mm ²	N/mm ²	0.05 < 1.0	
	芯材（横桁）	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.07 < 1.0	
		せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.02 < 1.0	
	カンヌキ部	カンヌキ	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.22 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
			組合せ	N/mm ²	N/mm ²	0.22 < 1.0
		カンヌキ受けピン	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.16 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
		カンヌキ受けボルト		N/mm ²	N/mm ²	0.06 < 1.0
	アンカーボルト		kN	kN	0.09 < 1.0	
原子炉隔離時冷却系室北側水密扉	扉板		N/mm ²	N/mm ²	0.05 < 1.0	
	芯材（横桁）	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.06 < 1.0	
		せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.02 < 1.0	
	カンヌキ部	カンヌキ	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.21 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
			組合せ	N/mm ²	N/mm ²	0.21 < 1.0
		カンヌキ受けピン	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.16 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
		カンヌキ受けボルト		N/mm ²	N/mm ²	0.06 < 1.0
	アンカーボルト		kN	kN	0.09 < 1.0	

第5-1表 水密扉の強度評価結果(2/2)

名称	評価対象部位		発生値	許容限界値	検定	
原子炉隔離時 冷却系室南側 水密扉	扉板		N/mm ²	N/mm ²	0.07 < 1.0	
	芯材 (横桁)	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.08 < 1.0	
		せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.02 < 1.0	
	カンヌキ部	カンヌキ	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.24 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
			組合せ	N/mm ²	N/mm ²	0.24 < 1.0
		カンヌキ受けピン	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.17 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
		カンヌキ受けボルト		N/mm ²	N/mm ²	0.07 < 1.0
	アンカーボルト		kN	kN	0.09 < 1.0	
高圧炉心スプ レイ系ポンプ 室水密扉	扉板		N/mm ²	N/mm ²	0.07 < 1.0	
	芯材 (横桁)	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.08 < 1.0	
		せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.02 < 1.0	
	カンヌキ部	カンヌキ	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.24 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
			組合せ	N/mm ²	N/mm ²	0.24 < 1.0
		カンヌキ受けピン	曲げ	N/mm ²	N/mm ²	0.17 < 1.0
			せん断	N/mm ²	N/mm ²	0.03 < 1.0
		カンヌキ受けボルト		N/mm ²	N/mm ²	0.07 < 1.0
	アンカーボルト		kN	kN	0.09 < 1.0	

NT2 補② V-3-別添-3-4-1 R6E